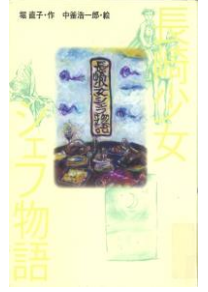


郷土学習セット「2-1 中学生向け 読み物①」から6冊を紹介します。

12	『黄金旋律 旅立ちの荒野』 村山 早紀／著 KADOKAWA	医者を見夢る少年・臨は、数百年後の 廃墟と化した病院で目が覚めました。 病院を飛び出した臨は、地図にない街 に手紙を届ける少年と、黒い翼のはえ た猫に出会います。著者は長崎県出身 の村山早紀さんです。	
27	『わたしの魚類図鑑』 (子ども詩のポケットえ くすとら) 畑島喜久生／著 てらいんく	対馬で生まれ育ち、魚づくめの少年時 代を過ごした著者、畑島喜久生さん が、魚のことばかりを書いた詩の本で す。一つ一つの詩に詩の解説や、少年 時代の対馬の思い出話がついていま す。詩も味わい深いですが、対馬の話 も面白いです。	
28	『浦上の旅人たち』 (岩波少年文庫) 今西祐行／作 岩波書店	明治のはじめ、長崎・浦上で信仰を守 りつづけてきた潜伏キリシタンたち は、罪人として各地へ流され苦役をし いられました。彼らはそれを「旅」と よびました。農家の娘たみの人生と、 「旅」にまぎれこむ浮浪児千吉の人生 がからまりあっていく、歴史的事実 にもとづく物語です。	
34	『少女リブの冒険 青い瞳で見た17世紀の 日本と台湾』 アニタ・ステイナー／作・絵 武田 和子／訳 悠書館	17世紀、オランダ人の父、日本人の 母の間に生まれたリブは黒い髪と青い 目の少女です。母を亡くした12歳の 少女リブは、父と一緒に長崎の出島に 向かいます。長崎から江戸まで日本を 旅する道中次々と事件が起きます。	
36	『長崎少女シェフ物語』 (文学の森) 堀直子／作 中釜浩一郎／絵 小峰書店	明治の初めころの長崎、料理人だった 父を突然亡くした少女リンは、父のよ うな料理人になりたいと皿洗いをしな がら料理の勉強をします。足をひっぱ られたり、馬鹿にされたりしながら も、料理の戦いで人一倍頑張る当時の 少女の真の強さを描いた物語。	
37	『読みがたり 長崎のむかし話』 長崎県小学校教育研究会国語 部／編 日本標準	長崎県にはむかしから、面白いむかし 話がたくさん語り伝えられています。 その中からしあわせになった話、かわ いそうな話ふしぎな話など50のむか し話が詰まっています。ふるさと長崎 の土地とくらしへの愛情を育てたいと の思いから作られた本です。	